



## 転んだ人はすばらしい（「九転び十起き」の精神） —「がんばっている子どもの結果より努力の過程を褒める」の巻—

佐渡市立河崎小学校長 濱田 晴明

「いろいろやっても、観光客は増えんちゃ。」と、世間に文句を言う人。さらに、「おらとこの息子は、すぐに仕事を辞めるし、根性なしでだちゃかんがさ。」と身内の批判まで言う人。このように、自分のことを棚にあげ（しかも、その棚に鍵を掛け）、自分以外は全てダメだと言う人がいます。

新学期が始まり、はや2か月。子どもたちはいろいろなことにがんばっています。時には、失敗することもあります。機会あるごとに以下のことを指導していきます。

**歩み出せば、時には、転ぶものです。歩み出さなければ、転ぶことはありません。**

**歩み出さないかぎり、何も進歩せず、何かを得ることもないのです。**

**転ぶということはスタートをしているのです。何もしないで、転んだ人を笑っている人が、一番だめなのです。また、転んだからといって、それが失敗ではないのです。よい結果が出なかったと言ってあきらめるのではなく、起き上がり、再度歩き始めることが重要なのです。**

**どんな小さな一歩でも、その一歩には大きな意味があるのです。かりに笑われても・結果がすぐに出なくても、自分の信念をもって一歩一歩前に進むことが大切です。**



NHKの朝ドラ「朝がきた」の主人公のモデルとなった日本女子大学の創設者の広岡浅子は、七転び八起き以上の“九転び十起き”を座右の銘として、波瀾万丈の人生を乗り越えては立ち上がる事ができたと言われます。今後、答えのない混沌とした21世紀を生きる子どもたちには、批判ばかりでなく、行動を起こし、失敗しても立ち上がれる人間になってもらいたいです。

さて、歩み出したけれど・挑戦しているけれど、子どもたちが結果を出すためには、どうしたらよいのでしょうか。子どもに「テストで100点とったらご褒美をあげるよ。」と、「本を読んだら・宿題をしたらご褒美をあげるよ。」では、どちらの方が、学力が上がると思いませんか。実は、結果だけを褒められて育った子どもは、自分の得意なことだけをやるようになってしまいます。失敗を避けるようになり、新しいことにチャレンジしない子どもになってしまいます。（親が結果ばかり言うので、100点以外のテストをトイレに捨てたという子どもに出会ったことがあります。）逆に、**それまでの努力の過程を褒められて育った子どもは、失敗を恐れずに挑戦するように育ちます。**また、どこを改善すれば良かったかなど、自分のやり方に目を向けるようになります。結果への評価よりも、**努力の過程に対して評価**をした方が、成績の向上につながります。（科学的なデータあり。）



最後に、我々大人は少なくとも、①子どもたちの前で、他を批判することはしないように心掛けませんか。また、②大人自身が何かに挑戦している姿を見せていきませんか。さらに、③挑戦している子どもの結果ではなく、その努力の過程を褒めていきませんか。

なお、「佐渡の教育はダメだ。」という声があります。言うのは簡単。私事ですが、佐渡の教育を良くしたいと考え、「日本プロ教師の会」（通称SMAP?）を同僚と2人だけで4年前に結成しました。その後、これまでに参加費無料で大きな研修会を3回開催しました。教員だけでなく、保育士、事務職員、介助員、一般の方まで、のべ160人の参加者を集めるほどになりました。（国民的なアイドルグループに上り詰めたSMAPは、デビュー当時はなかなかヒットも出ませんでした。光GENJIや少年隊などが、デビューするやいなや大ヒットを飛ばしただけに焦っていたそうです。しかし、あきらめずに歌い続けたそうです。）参加者を集めるのに困惑したり、内容の薄い研修になったりと、転んでばかりいて、胃が痛むこともあります。佐渡の教育を良くするという信念の基、今後も進み続けます。（ちなみに、「日本プロ教師の会」には、解散の予定はありません。）